

9月21日(日)・大会2日目 9:00~10:30 (A会場:17510教室)(90分)

●セッション【4】

「繊維産地・現在の明暗と今後のDX化での展開の可能性」

＊宮副謙司(青山学院大学国際マネジメント研究科 教授)

内海里香 氏(文化ファッション大学院大学 教授)

黒木美佳 氏(株式会社ディスカバーリンクせとうち 企画生産部マネージャー
HITOTOITO/REKROW 担当)

＊セッション・リーダー

〔 概 要 〕

ファッション産業において素材・生地製造(織布)業界の企業群は、製糸・撚糸・染色・整理・加工などの機能が、同一地域に存在し、連携し合って「繊維産地」を形成しています。その中で、日本における代表的な織物である綿織物・毛織物・絹織物の3領域の主要な繊維産地-綿織物-福山産地(広島県)、毛織物-尾州産地(愛知県・岐阜県)、絹織物-桐生産地(群馬県)の概況を2021年と2010年対比でみると、福山産地が事業者数・従業員数を維持し、製造品出荷額を伸ばしていることが明らかになりました。では、なぜ福山産地が持続的に活性化しているのかを、ものづくり・マーケティング視点や企業経営・人材育成視点から考察したいと思います。

さらに、一定地域に機能が集積して成り立っている産地が、DX活用によって物理的に遠隔であっても連携が可能になるのか、どのような展開の可能性があるのかなども議論したいと考えています。

〔 参加者へのメッセージ 〕

ファッション産業、産業集積、地場の中小企業経営、地域活性化などに関心のある会員の方々に、①繊維産地の比較分析(30分)、②福山産地で特徴あるものづくりやサーキュラーエコノミー「REKROW」さらに人材育成「HITOTOITO」プロジェクトなどに取り組む「ディスカバーリンクせとうち」の事例(40分)を報告したうえで、③今後のDX活用での繊維産地の新たな可能性などについてディスカッション(20分)できればと考えております。多くの方々のご参加をお待ちしております。